

2020東京パラリンピックを控え考えてみよう 障がいのある人への差別

障がい者への差別は、日本のみならず世界中で深刻な問題となっている。見た目の違いを理由にその人を避けたり、話しかけられずも無視したりという日常生活における差別がある。また、仕事の効率化を優先して障がい者を雇用しないという就職差別もある。

障がいの捉え方も時代とともに変化してきた。一口に障がいといっても種類や程度も様々であり、生まれながらに障がいのある人もいれば、病気や事故で障がい者になる人もいる。そのような中で、2011年に障害者基本法が改正され、障がい者の定義が拡大し、様々な障がいに応じた対応(合理的配慮)についての視点も示された。

このように障がい者に対する理解の高まりによって、障がい者問題が、制度上は改善しつつあるかのようには思える。しかし、障がい者差別をなくすためには、私たち自身が差別の実態について知らなければならぬ。一人ひとりが正しい知識を持ち、障がい者差別解消に向けて行動することが大切である。私たちも自分ができることを探して取り組んでいきたい。

2016年に施行された「障害者差別解消法」が、内閣府のリーフレットによると、「この法律は、障害のある人もない人も、互いながら、共に生きる社会をつくる事を目指しています。」とされています。

この法律は「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。

平成28年4月1日から
障害者差別解消法
がスタートします!

この法律は、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることを目指しています。

(注)正式名称は「障害を理由とする差別の解消を推進する法律」です。



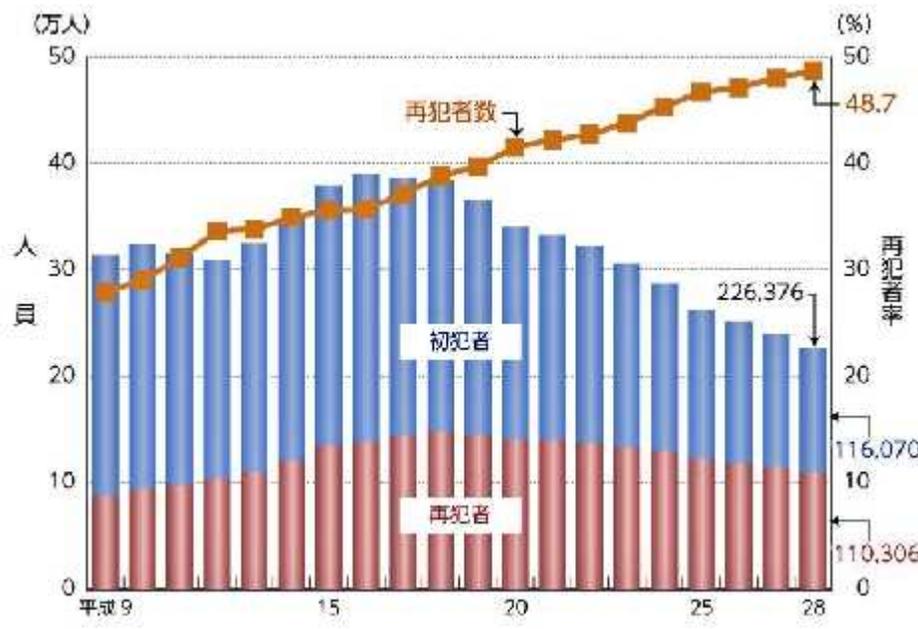
障害者差別解消法リーフレット【内閣府】

出所した人のサポートは犯罪抑制の第一歩 刑を終えて出所した人の人権

我が国には、刑期を終えて出所した人が大勢いる。出所後にそのような人たちの人権を守り生活をサポートする機関も多く存在する。入所者数の年齢層では、30歳から40歳の入所者が多く、近年では高齢者の犯罪も増加している。再入所者においては、およそ二年内に再入所する割合が高くなっている(左のグラフから再入所率が年々上昇していることがわかる)。このように

出所した人のサポートは犯罪抑制の第一歩である。出所者センターや「地域生活定着支援センター」などが、出所者

入所受刑者人員・再入者率の推移
(政府広報オンラインより引用)



出所した人のサポートは犯罪抑制の第一歩である。出所者センターや「地域生活定着支援センター」などが、出所者

供している。近年では、住居や職業の安定を支援する動きも見られ、出所後の人々に対する手厚い対応が目立つようになってきている。

我々は今、自分に何ができるのかというのをしっかりと考えなければならぬ。偏見を持ち、誹謗中傷を浴びせるのではなく、出所者たちの生活を如何によりよいものにしていくのかというのを熟考すべきである。支援の輪を広げることが犯罪を抑制する第一歩であり、人々の協力が不可欠だ。

2018 HR 人権委員

人権教育関係行事のお知らせ

あいぽーとフェスティバル2019

4月6日(土) 10:00~14:00 入場無料

あいぽーとフェスティバル 2019 入場無料

平成31年 4/6(土)

開催時間: 10:00~14:00
会場: 津洲マリンターミナルビル (津洲マリンターミナルビル)

今年も楽しいイベントをたくさんご用意しております。

- 10:00~10:05 オープニング
- 10:05~10:50 キャラクターショー
- 10:30~11:00 フードコート
- 11:00~12:00 トーク&コンサート
- 12:05~12:55 NPO法人 太鼓の楽校
- 13:00~13:50 三味線餅つき
- 14:00~ 花餅プレゼント
- 10:00~14:00 人権相談

沖洲マリンターミナルビルを会場として、あいぽーとフェスティバルが開催されます。

主な出演者は、和太鼓の響きを通じて和太鼓の素晴らしさや日本の心を伝えることを目的とした「太鼓の楽校」、江戸時代の脇町の豪商たちが餅をつかせたのが始まりとされる伝統芸「三味線もちつき うだつこ」は、ともに昨年に引き続きの公演となります。

今年のトーク&コンサートには、「ケチャップマヨネーズ」が出演します。うごく☆大きな絵と楽しい歌を届けてくれるそうです。